杉田玄白の青洲宛の書簡

杉田玄白が華岡青洲の業績を知り、華岡青洲に送った手紙。

未だ貴意を得ず候へども一書呈上致し候。時分柄薄暑と相成り候へども弥々御安清にならせられ候由、目出たく存じ奉り候。

然れば老兄の御高名は江戸表まで相聞え御頼もしく存じ罷り在り候。旧年以来かねて御随身中に罷り在り候由の宮川順達と申す加賀の書生出府致し委しき御噂承知致し候。数年御治療のところ被労御精心の段ほぼ承りさてさて御頼もしく存じ奉り候。

老拙儀も二三世外治を以て旦那家に仕へ罷り在り候こと故何卒生民の為め少しにても治業の慮らひ工夫致し候て益にも相成りたく年来心懸け候へども差したる義もこれなく、犬馬の老積り最早当年八旬に及び空しく朽ち果て申すべく残念に存じ奉り候。

さりながら老驥伏櫪の志は相止み申さず折節不審の義有之候へども本科は格別同業の者には海内に承り及び候者もこれなく候。

幸ひ老兄の御噂承り及び候へどもこれまで好縁も御座なく罷り在り候。順達罷り越し候て御手術御煉熟の段申し聞けさてさてと感心致し候ことに御座候。

江戸表は御聞及びもこれあり候哉。手を下し候はば宜しかるべしと存じ候病人も間々これあり候へども比々白面貴价の公子のみにて痛苦を忍び候ものこれ無く拙業とは存じながらその術施し難く打過ぎ候ことばかり多くこれあり候て遺憾少なからず候。 さりながら以来不審の義もこれ有り候はば御文通にてなりとも御相談申したく候。拙者は老衰に及び候へども倅どもの為めにも御座候間彼等より申し上げ候ことも御座あるべ候。御許容なし置かれ下さるべく候。

順達より書面差上げ候様承り候間卒忽ながら申し上げ候。以来御知己の内へ加へられ置き下さるべく頼み奉り候。恐惶謹言。

五月四日　　杉田玄白　翼花押

華岡随賢様人々御中

参考文献　上山英明「華岡青洲先生その業績とひととなり」医聖・華岡青洲顕彰会